

グローバル・ヴィレッジ(GV) 2024 年活動報告

2024 年は、「フェアトレードの学校」のテーマに難民支援や防災を取り上げるなど、啓発活動の幅を広げる工夫をしました。また、地震と豪雨による水害で甚大な被害を受けた能登を支援するオンラインイベントを開催するなど、国内の問題にも目を向けました。

フェアトレードの普及・推進活動としては、5 月の世界フェアトレード・デーにインドの生産者パートナーとオンラインでつないだライブイベントを行い、フェアトレードの現場を身近に感じていただく機会をつくりました。

現地支援の活動は、バングラデシュの生産者パートナーの小学校運営や、同国の縫製工場等で働く女性たちの地位向上を目指す活動への支援を継続しました。

【収入・支出状況】

(会計年度1月1日～12月31日)		(単位:円)
	2023	2024
収入の部	1,499,423	1,328,211
会費収入	790,000	675,000
寄付金収入	297,278	183,927
啓発活動収入	412,145	469,284
支出の部	2,164,382	1,485,679
情報発信	203,666	189,200
啓発活動費	324,491	408,158
プロジェクト支援	1,101,102	355,177
活動費小計	1,629,259	952,535
人件費	228,000	228,000
家賃・水道光熱費	228,000	228,000
手数料	36,426	31,183
その他事務所諸経費	42,697	45,961
事務所経費小計	535,123	533,144
当期収支	▲ 664,959	▲ 157,468
前期繰越	729,592	64,633
次期繰越	64,633	▲ 92,835

収入の部は 132 万円で、うち会費収入が 67 万円、寄付金収入が 18 万円と、いずれも前年よりやや減少しました。一方、「フェアトレードの学校」の参加費や講演の講師料などによる啓発活動収入は 46 万円で、市民団体や企業など講演依頼元の多様化と件数増加により前年よりやや増加しました。

支出の部は 148 万円で、中でもプロジェクト支援費が 35 万円と前年より大幅に減少していますが、これは支援金の送金時期が次年度にずれ込んだことで当年度内に計上しなかったためで、活動内容はほぼ前年を踏襲しています。事務所経費は 53 万円と前年同様です。

この結果、当期単年では 15 万円の損失を計上し、次年度に 9 万円の損失を繰り越しました。新年度においては、活動資金の調達方法を探ってまいります。

【活動報告】

1. 生産者パートナー等のプロジェクト支援活動

1) 小学校の運営を継続支援(バングラデシュ)

ピープルツリーに衣料品や雑貨を届けてくれる「タナパラ・スワローズ」が運営する小学校に、引き続き支援金を送りました。スワローズの活動開始直後から 40 年あまりにわたり運営されてきた小学校が 2022 年末にコロナ禍での資金難と政府の政策の影響を受けて閉校となり、2023 年 1 月から未就学時のプレスクールとして再出発しました。新体制となって 3 年目の学校には、プレスクールと小学校 1～2 年の 4 クラスで総生徒数 71 人が通うまでになりました。

2025 年の新年度からは教師も 1 名増えて 4 名となり、午前と午後の 2 部制で教えています。

この学校を継続的に支えるため、2022 年度から運営費の一部として年 3,000 ドルの支援金を送っています。



学期末の試験に臨んだ子どもたち

※2024 年度の支援金は同年 6 月に送金しましたが、送金確定時の 2023 年に支出計上したため本年の支出には含まれていません。

2) 子どもの教育と女性の職業訓練を支援(インド)

主にアクセサリーを手掛ける「タラ・プロジェクト」はさまざまな社会プロジェクトを運営しており、2024 年度も 2 つのプロジェクトに支援金を送りました。ひとつは貧困家庭の子ども達を対象に公立学校の授業の補習を行う教育センター、もうひとつはスラム地区の若い女性が縫製技術を身に付けるための研修センターです。

なお、昨年までの支援先であった、石細工の職人が多く住むアグラ地区の教育センターは、残念ながら石細工の生産プロジェクトが活動終了となったことに伴い縮小され、今回の寄付先はデリー郊外の別の教育センターに変更となりました。生産活動の終了は、ヨーロッパの大きなバイヤーが発注を中止したことによるもので、フェアトレードによる安定的な支援の難しさを考えさせる出来事となりました。

《送金額》

23 万 3 千円



縫製の研修の成果を見せる女性たち

※上記はジュエリーブランド「RUKUS by yasuihiro tomita」よりご寄付いただいた 5 万 8 千円と、ピープルツリーのアクセサリーの売上に応じた寄付 17 万 5 千円の合計額で、GV の支出に含まれません。

3) バングラデシュ衣料産業労働者連盟 (NGWF)

縫製工場等で働く労働者たちの地位向上を目指すNGWFに対し、毎年定額で1,000ドルを送り活動を支援しています。

バングラデシュでは2024年7月に学生デモを発端とする反政府運動が起こり、当時の首相が国外に脱出、暫定政府が樹立されるという大きな政変がありました。デモの鎮圧の際に命を落とした人は600人以上にのぼり、NGWFの組合員7名も犠牲になりました。

NGWFは、暫定政権と今後選挙を経て発足する新政権に対して、よりよい政治に期待を寄せると共に、引き続き労働者の地位向上を実現するよう求めていくと表明しています。

《送金額》 14万5千円



暫定政権に対し労働者の地位向上を訴えたデモ(2024年8月)

2. 啓発活動

1) 世界的なキャンペーンとの連動

ファッションの背景を考える4月の「ファッションレポリューション・デー(FRD)」に合わせ、FRDの日本事務局を務める一般社団法人unistepsの共同代表理事である鎌田安里紗さんをゲストに招き、古着の終着となっているケニアの視察報告や、ヨーロッパのエシカルファッションの最新情報を共有いただきました。



鎌田安里紗さん



インドから出演してくれたサロジさん(右上・右)とロージさん(同・左)

また、フェアトレード月間の5月には、インドの生産者パートナー「クリエイティブ・ハンディクラフト」とオンラインでつなぎ、ゲストのサロジ・カンブルさん、ロージ・ソランキさんのお二人に生産工房の様子や女性職人のための託児ルームの様子をリアルタイムで伝えてもらいました。

2) フェアトレードの学校

自由が丘店でのリアル開催とオンライン開催を組み合わせ、年間5回のフェアトレードの学校を開催しました。

6月は「世界難民の日」に合わせ、日本の難民問題にビジネスで取り組むピープルポート株式会社の藤井優花さんを、9月は防災の日に合わせて『今すぐ逃げて！人ごとではない自然災害』の著者・金藤純子さんをそれぞれゲストに招いてお話をうかがうなど、フェアトレードにとどまらない多彩なテーマを扱いました。

また、7月にはインドの生産者パートナー「サシャ・ハンディクラフト」の代表・ルーパ・メタさん、スワガタ・ゴシユさんの来日の機会をとらえてお話を開催し、フェアトレードの現場の声を届けました。

10月には、能登半島地震および豪雨で水害により甚大な被害を受けた能登を応援するオンラインイベントを開催しました。能登を舞台にした石井かほり監督のドキュメンタリー映画2作品の上映と監督によるトークイベントを行い、必要経費を除いた金額を能登支援のために寄付しました。



上映した『ひとにぎりの塩』と『一献の系譜』

3) 講師派遣・インタビュー等 18件

2022年に開発教育協会(DEAR)の制作チームの一員として持続可能なファッションを考えるワークショップの教材制作に関わったご縁で、同団体主催の講座に招かれたり紹介を受けるなどしたこともあり、講師派遣の件数は前年の11件から大きく増加しました。

- ・市民団体等 5件
- ・学校 12件(大学2/高校4/中学校4/小学校2)
- ・企業 1件

4) フェアトレード普及活動の支援

メディアや出版社からの取材や情報提供依頼に協力することにより、フェアトレードやエシカル消費についての情報発信を広げました。

【2025年活動計画】

タナバラ・スワローズの学校運営の支援を継続するとともに、変化する時代をとらえ、「フェアトレードの学校」を通じて人が集う場を提供し、フェアトレードにとどまらずさまざまな社会問題や環境問題をテーマに広く啓発活動を進めてまいります。

以上